

①

万葉集

茜さす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る

額田王

額田王の系図

②

万葉集

紫草のにはへる妹を憎くあらば人妻ゆゑにわれ恋ひめやも 天武天皇

③

万葉集

熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今は漕ぎ出でな 額田王

④

万葉集

銀も金も玉も何せむに勝れる宝子に及かめやも

山上臣憶良

⑤

万葉集

春過ぎて夏来るらし白栲の衣乾したり天の香具山 持統天皇

⑥

万葉集

田子の浦中うち出でてみれば 真白にそ 不尽の高嶺に 雪は降りける 山部宿禰 赤人

万葉集の単純明白な表現をなぜわざわざ改悪したのか。時代の流れとはいえ残念である。

改悪例

百人一首

春過ぎて夏来にけらし 白妙の衣ほすてふ 天の香具山

百人一首

田子の浦にうち出て見れば 白妙の富士の高嶺に雪はふりつつ

改悪例

百人一首の組み合わせ

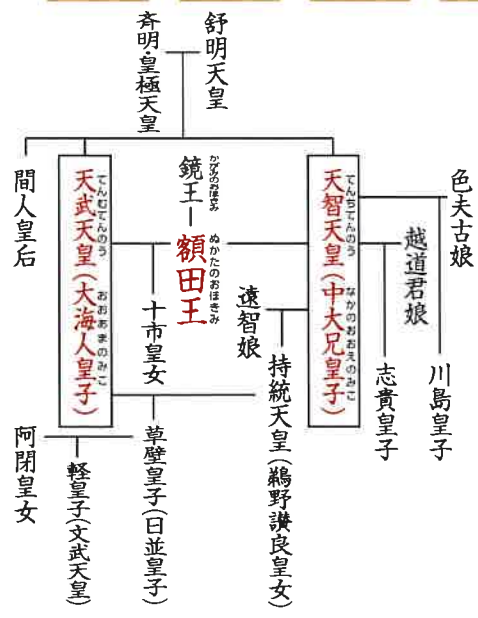
読み札 上の句

取り札 下の句



ころもほす
てふあまの
かぐやま

ふしのたか
ねにゆきは
ふりつつ



7

百人一首
人はいざ 心も知らずふる里は
花ぞ昔の 香ににほひける
紀貫之



カラー文庫「百人一首」(マルル社) P44より

8

百人一首
ちはやぶる 神代もきかず 龍田川
から紅に 水くくるとは
在 原業平朝臣



カラー文庫「百人一首」(マルル社) P26より

9

百人一首
いにしへの 奈良の都の 八重桜
けふ九重に にほひぬるかな
伊勢大輔



カラー文庫「百人一首」(マルル社) P70より

10

百人一首
かくとだに えやはいふきの さしも草
さしも知らじな 燃ゆる思ひを
郷土下野国登場
藤原実方朝臣



カラー文庫「百人一首」(マルル社) P60より

11

百人一首
瀬を早み 岩にせかるる 滝川の
われても末にあはむと思ふ
江戸古典落語「崇徳院」に登場
崇徳院



カラー文庫「百人一首」(マルル社) P86より

良 12



花の色は うつりにけりな
いたづらに わが身よにふる
ながめせしまに
小野小町

良 13



天の原 安倍仲磨
ふりつけ 見れば
春日なる 三笠の山に
いでし月かも

良 14



いにしへの 奈良の都の
八重桜 けふ九重に
にはほぬるかな
伊勢大輔

良 15



あしぎの 山馬の尾の
しだり尾の ながながし夜を
ひとりかも寝む
柿本人麿

良 16



天つ風 雲のかよひ路
吹きさそよ ほとけの姿
しばしことめむ
僧正遍昭

良 17



在 原業平朝臣
ちはやぶる 神代もきかず
龍田川 からくれぬるに
水くくるとは

良 18



かくとだに えやはいふきの
さしも草 さしも知らじな
もゆる思ひを
藤原実方朝臣

良 19



めぐりあひて 見しやそれとも
わかぬまに 雲がくれにし
夜半の月かな
紫式部

おすすめ書籍

今回の季節資料の歌はこの本より取り上げました。



中西 進「万葉の秀歌」ちくま学芸文庫

文化勲章受章の中西進氏は、安倍総理の意を汲んで中国の論語ではなく万葉集の序文から新年号「令和」を提案しました。言わば令和の名付け親であります。



「写説「坂の上の雲」を行く」太平洋戦争研究会 著 (講談社文庫)

まさおかしき 正岡子規

子規・ホトトギス
口の中が赤く、喘いで血を吐くと
言われるホトトギスより自ら命名。

俳人。歌人。幼名は昇。伊予(愛媛
県松山)生れ。新聞『日本』社に入り、
俳諧を研究。雑誌「ホトトギス」に拠つ
て写生俳句・写生文を首唱、また歌論
「歌よみに与ふる書」を発表して短歌
革新を試み、新体詩・小説にも筆を染
めた。その俳句を日本派、和歌を根岸
派という。歌集「竹の里歌」、随筆「病牀
六尺」、日記「仰臥漫録」など。(186
7~1902)

あつた。同郷の門弟高浜虚子(幼名…清
から子規が命名)・河東碧梧桐(幼名…
秉五郎から子規が命名)土屋文明(文
明評論家、歌人)たちと俳句・短歌の革
新運動を進めた。
他にも、伊藤左千夫(代表作「野菊
の墓」)、斎藤茂吉(日本の歌人、精神科
医(長男は斎藤茂太)、夏目漱石(東
大同窓生で松山にて同居していたこ
とも)、森鷗外(日清戦争の従軍記者
だった子規と戦地で出会った)など
様々な文化人と交友があった。

再び歌よみに与ふる書

貫之は下手な歌よみにて古今集はくだらぬ集に有之候。

歌よみに与ふる書

正岡子規の歌論書。新聞『日本』に18
98年(明治31)2月11日より3月4日
まで10回にわたって連載。1902年(明
治35)12月、吉川弘文館刊の『日本叢書
子規随筆統篇』に収録。当時の旧派の歌
人を激しく攻撃し、源実朝の『金槐集』を
褒め、和歌の趣向の変化を求めて、理屈を
排し、客観写生の重視を説くなど、強い自
信と決意にあふれており、子規の和歌革
新の第声になり、歌人としての子規の出
発点ともなった。



病牀六尺抄

○病牀六尺、これが我世界である。しかもこの六尺の病牀が余には広過ぎるのである。わずかに手を延ばして畳に触れる事はあるが、布団の外へまで足を延ばして体をくつろぐ事も出来ない。甚だしい時は極端の苦痛に苦しめられて五分も一寸も体の動けない事がある。苦痛、煩悶、号泣、痲痺剤、わずかに一条の活路を死路の内求めて少しの安楽を貪る果敢なき、それでも生きて居ればいたい事はいいたいもので、毎日見るものは新聞雑誌に限って居れど、それさえ読めないで苦しんで居る時も多いが、読めば腹の立つ事、癪にさわる事、たまには何となく嬉しくてために病苦を忘るるような事が無いでもない。



「写説「坂の上の雲」を行く」太平洋戦争研究会 著 (講談社文庫)より
病床の子規が毎日眺めていた子規庵の小さな庭

「ちくま文学全集・正岡子規」(筑摩書房)より

はじめに および

今回の卓話の進め方について

本日の卓話時間を45分以内
(出来れば30分以内)で終了させるために

皆様、今日は！

本日の卓話のメインタイトルは「万葉集」と「百人一首」、サブタイトルが「明治が生んだ大文豪にて大革命家 正岡子規の『歌よみに与ふる書』にて検証する」でございます。

私の卓話は毎回予定の30分間では終わることができなくて問題視されているようですので、いくつか工夫をいたしました。それは、各々の短歌を取り上げて全部説明すると膨大な時間がかかることになりまますので、掲載時点で比較的有名な短歌や出来映えの良いもの、問題のある短歌等を私谷中の判断によって選定したところ、万葉集より6首、百人一首より12首の合計18首を選んであります。

何故問題点があるのか等は時間があればその都度順番に解説させて頂くつもりですが、大まかな傾向が掴めたら後は皆様各自でお調べくださいますようお願いいたします。なお、もしご質問があれば極力その場でお答えしたいと思っております。

この卓話資料(レジメ)は、もし出来ましたら私の喜寿記念の自費出版本の表紙裏にでも挿入できるサイズ(A4判より一回り小さめ)に断裁してありますので、ご自宅に帰られましたらそのようにお願いできれば幸いです。

『万葉集の驚くべき特徴』渡部昇一先生の著書より

わたなべしやういち

今回の卓話にあたり、「万葉集」について、色々な論文コラムを探し読みしていた所、上智大学名誉教授で文化勲章受章の我が国有数の言語学者右翼論客とも言われる渡部昇一先生の「よく分かる！日本の歴史」という初心者向け解説書にて「万葉集」の項を読み直していたら実に明解ユニークな文章に出会いましたので、ここにその要点をご紹介します。

『万葉集』の本質に関わる大きな特徴は、作者が上は天皇から下は兵士、農民、遊女、乞食に至るまで各階層におよび、身分の差がまったく見られないことである。もちろん男女の差別もない。地域も東国、北陸、九州の各地方を含んでいる。文字どおり国民的歌集なのである。

では、その選ぶ基準は何であったかといえば、純粋に「いい歌がどうか」ということだけであった。当時の觀念から言えば、「言霊」(言葉に宿る霊力)が感じられるかどうかである。言霊さえ感じられれば身分は問わない。言い換えれば、日本人は「歌の前に平等」であった。

ユダヤ・キリスト教圏においては「万人は神の前に平等である」という考え方が支配的である。教会でどれほど高い地位を占めようと、神の目から見れば法皇も奴隷も同じなのだ。またローマでは「法の前に平等である」というのを建前としていた。ローマ帝国は多くの異民族を含んでいたため、それをローマの忠実な市民とするためには公平に扱わなければならない。その基準を「法」におかねばならなかったのである。

近代の欧米諸国では、だいたいこの二つの「平等」をよりどころにして人々は生きている。毎日の生活においては法の規範に頼り、死後は神の正義に頼るのである。

ところが日本の万葉時代の人々は、言霊をあやつることにして平等だった。「和歌の前に万人は平等であ

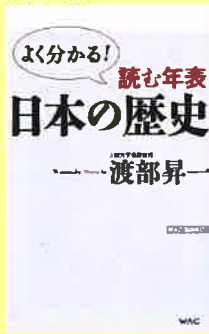
る」という発想がなければ、『万葉集』のような体裁はとれなかったであろう。『万葉集』に現れた歌聖として尊敬を受けている柿本人麻呂にせよ山部赤人にせよ、身分は高くない。とくに柿本人麻呂は、石見国の大垣の木の下から生まれたという伝説があり、これは素性も知れぬ下賤の生まれであることを暗示している。その人麻呂が和歌の神様として崇拜されるのである。

もともと、「大宝律令」などを経て身分制度がやがましくなると、あまり身分の低い者や問題のある人物の名前を出すことをはばかって「詠み人知らず」とするようになる。これは言霊思想と「和歌の前に平等」という意識が緩んできたということにほかならない。

それでも、和歌の前に身分の上下はないという感覚はかすかながら生き残っていて、現在でも新年に皇居で行われる「歌会始」には誰でも参加できる。毎年、皇帝が歌(詩)の題、つまり「勅題」を出して、誰でもそれに応募でき、作品が良ければ皇帝の招待を受けるといような優美な風習は世界中どこにもないであろう。



渡部昇一先生



読む年表 よく分かる!日本の歴史 (WAC BUNGO)

紀貫之(古今集より)作百人一首への谷中宏太郎のコメント

人はいざ 心も知らずふる里は
 花ぞ昔の 香ににほひける
 紀貫之

この歌は貫之が慣例にしておりました奈良県桜井市にある長谷寺の年参りを、たまたま欠場することになった時、常宿としておりました旅館の女主人から責められた事に対する反歌で、ほぼ即興で作ったものと言われております。



しかし、いやしくも古今和歌集の編者で、六歌仙にまで選ばれている紀貫之たる歌人が、いかに即興とは言え、この全然意味不明のロクデモナイ歌しか詠めなかつたことは実にナサケナイ。

「いざ」と「ぞ」の強化語に助けを借りて、ようやくく5・7・5・7・7計31文字の歌になったと言うだけのことです。子規が言っている「貫之は下手な歌よみにて古今集はくだらぬ集にて有之候」の意味がよくわかつた次第であります。

名人であるなら、無沙汰が続いて申し訳ありませんでした。今後はかかることの無いようにしますので、今回は何とぞお見逃し下さいとの心をそれとなく盛り込んだ歌を作るべきでしょう。歌とは要するに心を伝えることなのです。

このように考えた私は今年こそ「百人一首」かるたを百首丸暗記して、正月には家族のカルタ取り大会でもと期待しておりましたが、今はこの計画は中止いたしました。その分、何か長編文学の読書にでも当てようかと思えます。

なお、使わなくなつたかるたは家族みんなで坊主メクリなどで楽しく正月を過ごしたいなどと計画しております。

出版社は、殆どが恋の歌ラブレター……ばかりの平安時代の百人一首を廃止し、「万葉集カルタ」あるいは、石川啄木や与謝野晶子のような国民的に知られる歌で「国民和歌カルタ」をぜひ作つてほしいものです。そのカルタで子供達の情操教育や日本語に対する尊敬の念を植えつける一助とすべきです。

筆責：谷中宏太郎

正岡子規の生涯(俳句)

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

絶筆三句

糸瓜咲て疲のつまりし仏かな

疲二斗糸瓜の水も間にあはず

をと、ひのへちまの水も取らざりき



【写説「坂の上の雲」に行く】太平洋戦争研究会 著 (講談社文庫)より 病床の子規が毎日眺めていた子規庵の小さな庭

おわりに

今回の卓話及びレジメのうち正岡子規及び交遊録関係については、すべて司馬遼太郎著歴史小説「坂の上の雲」(文春文庫第1〜8巻)及びそれに係る無数に近い解説書(例NHK文庫他)に記載されたものを参考にしております。

なお、短歌・俳句(万葉集百人一首のうちから)に付けられた番号は卓話の都合上、私が見た記憶すべき歌に付けたものであり、その番号は重要度とは関係ありません。

それにしてもこの病弱な天才正岡子規の才能を早々に見抜き、新聞「日本」社の社員として採用し、黙って月給40円(現代で約40万円)を払い続けた上、根岸の子規宅の隣に本社を引っ越してくれたその度量の大きさと子規に対する無限の優しさを思うと、

陸羯南氏の人物の大きさに心打たれるのは私だけでしょうか。正岡子規の病の治療と生活を支えるため、故郷の松山から妹 律さんと母親 正岡八重さんと呼び寄せ、同居を

勧めたのも陸氏でした。

最後にこの卓話のまとめ(反歌)として、

私が選んだ好きな短歌二首(万葉調につき子規が好み高評価を与えた)

数島の大和ころを人間はば

朝日に匂ふ山桜花

本居宣長

本居宣長(江戸時代中期の国学者、万葉集の専門家) ※「数島の」は「大和の」枕詞

箱根路をわが越えくれば伊豆の海や

沖の小島に白波の寄る見ゆ

源実朝

源実朝(鎌倉幕府第三代征夷大将軍、雅号鎌倉石大臣) 『金槐和歌集』より 十国時から駿河湾を眺めて

おつと二つ大事な傑作をご紹介洩れする所でした。

東の野に陽炎の立つ見えて

返り見すれば月傾きぬ

「万葉集」より 柿本人麻呂朝臣

どうですかこのスケールの大きな絵巻物は。